

住宅における収納スペースの設置状況

(ハウスメーカーに対する調査)

中 島 喜代子

The Conditions of Arrangements of the Storage Space in the Houses

(The Investigation to the House Maker)

Kiyoko NAKAJIMA

緒 論

ライフスタイルの多様化と衣生活の多様化に伴って、わが国では衣類の所有量が飛躍的に増大している。このような現状において、生活者の中には衣類の収納に対しての関心が高まっている。一方、ハウスメーカーの側においてもこの状況を受けて、新しい衣類の収納専用スペースである「ウォークインクローゼット」を積極的に設置し、それをセールスポイントにしようとする動きがみられる。

そこで、本論文ではハウスメーカーに対する調査を実施することにより、現在わが国において住宅に設けられている納戸およびウォークインクローゼット等の収納専用スペースおよびその他の各種収納スペースの設置状況と、ウォークインクローゼットの将来動向をとらえることを目的とする。

以下に、本論文で取り組むべき課題を述べる。

1) まず、各ハウスメーカーにおける収納スペース全般の設置状況と設置原則の現状をとらえる。

2) 次に、納戸・ウォークインクローゼット等の収納専用スペースについての、各ハウスメーカーの設置状況と設置原則の現状をとらえる。

3) 最後に、ウォークインクローゼットについての、各ハウスメーカーの現在の取組み方と将来動向に対する予測をとらえる。

調査対象と調査方法

1. 調査方法

現在、わが国において住宅に設けられている納戸およびウォークインクローゼット等の収納専用スペースの設置状況と、ウォークインクローゼットの将来動向をとらえるため、日本全国のハウスメーカー89件を対象とした郵送によるアンケート調査を実施した。調査時期は昭和62年9月であり、調査の結果34件のサンプルを得た。そのうち、特に販売戸数の少ない3件の輸入住宅系列のメーカーについては調査内容の分析の対象から除き、31件を対象サンプルとした。なお、調査回答者は設計担当者と指定した。

2. 調査対象の概要

1) ハウスメーカーの所在地

調査対象の概要を、表1に示す。

調査対象が存在する地域は、「東京」が最も多く約半数を占め、次に「大阪」が続いており、大都市とその周辺に立地している場合がほとんどである。

2) ハウスメーカーが製造する住宅の系列

住宅の系列については、「ツーバイフォー」と「木造」が並んで多く、それぞれ約3割を占めている。それに対し、「コンクリート」系と「鉄骨」系は少なくなっている。

表 1. 調査対象の概要

メーカーの所在地	件数	(%)
東 京	15	48.3
横 浜	2	6.4
大 阪	6	19.4
名 古 屋	2	6.4
広 島	1	3.2
小 金 井	1	3.2
武 蔵 野	1	3.2
浜 松	1	3.2
清 水	1	3.2
三 重	1	3.2
合 計	31	100.0

フリープラン型住宅売戸数	件数	(%)
～ 100未満	4	12.9
100～ 500	9	29.0
500～ 1000	7	22.6
1000～ 1500	3	9.7
1500～ 2000	1	3.2
2000～ 5000	2	6.5
5000～10000	3	9.7
10000～	2	6.5
合 計	31	100.0
平均戸数	2172戸	

メーカーの系列	件数	(%)
コンクリート	3	9.7
プレハブ	7	22.6
鉄骨	1	3.2
輸入住宅	1	3.2
ツーバイフォー	9	29.0
木造	10	32.3
合 計	31	100.0

販 売 戸 数	件数	(%)
～ 100未満	4	12.9
100～ 500	6	19.4
500～ 1000	7	22.6
1000～ 1500	3	9.7
1500～ 2000	2	6.5
2000～ 2500	2	6.5
2500～ 5000	2	6.5
5000～10000	2	6.5
10000～	3	9.7
合 計	31	100.0
平均戸数	2646戸	

販売戸数中のフリープラン型住宅の割合	件数	(%)
2～4割未満	1	3.2
4～6割未満	2	6.5
6～8割未満	7	22.6
8～10割	21	67.7
合 計	31	100.0
平 均	8.2割	

3) 販売戸数

販売戸数は、昭和61年度一年間に販売された住宅の概数について調査した数字である。一千戸未満の会社が多く、約6割を占めている。地域との関連をみると、一千戸以上販売しているのは、すべて東京、大阪、名古屋の3地域で、人口の集中している都市のメーカーである。そのうち、一万戸以上販売しているメーカーは、3件とも大阪のメーカーである。

また、販売された住宅のうちフリープラン型住宅が占める割合をみると、過半数を越えるメーカーにおいてフリープラン型住宅の占める割合が

8割以上の値を示しており、「建売住宅」よりも「注文住宅」の方がかなり多い現状といえる。

調査結果と考察

1. 収納スペースの設置状況と設置原則

100㎡以上の面積をもつ標準的住宅の場合について、ハウスメーカーに対してその各種収納スペースの設置状況と設置原則を調査した。その結果について検討する。

1) 押入・天袋の設置状況

a. 押入・物入・天袋の寸法

住宅における収納スペースの設置状況

表2. 押入・物入・天袋の標準的な寸法

(複数回答)

(mm)	押入の標準的寸法						物入の標準的寸法					
	W		D		H		W		D		H	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
～ 800未満			1	3.2			1	3.2	11	35.5		
800～ 900			2	6.5			1	3.2	1	3.2		
900～1000	12	38.7	31	100.0			11	35.5	20	64.5		
1000～1100							1	3.2				
1100～1200												
1200～1300	1	3.2	1	3.2			2	6.5	1	3.2		
1300～1400	6	19.4					5	16.1				
1400～1500												
1500～1600	1	3.2					1	3.2				
1600～1700							1	3.2				
1700～1800	3	9.7			5	16.1	1	3.2			2	6.5
1800～1900	27	87.1			22	71.0	18	58.1			4	12.9
1900～2000					5	16.1						
2000～2100					1	3.2					8	25.8
2100～2200					2	6.5					2	6.5
2200～2300												
2300～2400					1	3.2					5	16.1
2400～2500	2	6.5			1	3.2					10	32.3
2700～	2	6.5					1	3.2				
平均 (mm)	1599		906		1871		1278		817		2093	

天袋の標準的寸法

(mm)	W		D		H	
	件数	%	件数	%	件数	%
300～ 400					1	3.2
400～ 500					7	22.6
500～ 600					9	29.0
600～ 700			2	6.5	14	45.2
700～ 800						
800～ 900			2	6.5		
900～1000	9	29.0	27	87.1	1	3.2
1300～1400	3	9.7				
1700～1800	3	9.7				
1800～1900	24	77.4			1	3.2
2400～2500	1	3.2				
2700～	2	6.5				
平均 (mm)	1642		884		580	

ハウスメーカーが用いていると回答した押入・物入・天袋の標準的な寸法を表2に示す。押入については、その幅は半間単位に直すと900～915

mmがほとんどであるが、900mmに満たない寸法を標準とするメーカーもややみられる。奥行きは、900～950mmの間にほとんどが含まれるが、

900 mm に満たないものもやみられる。高さは、1750 mm～2400 mm の間でばらつきがみられる。これは、天袋設置の有無と関連していると考えられる。

物入では、幅は押入と同様の寸法を用いているメーカーが多いが、押入の場合よりもやや短く、また押入よりもメーカーによるばらつきがみられる。奥行きは、その平均寸法は押入が 906 mm であるのに対して 817 mm となっており、押入よりもやや短くなっている。高さは、その平均寸法が 2093 mm となっており、天井面までの高さをとるメーカーが約半数である。

天袋は、その幅と奥行きについては押入の場合とほぼ同様である。高さは、318 mm～638 mm までばらつきがあるが、600 mm の寸法を用いるメーカーがもっとも多く平均寸法は 513 mm と

なっている。

b. 天袋の設置原則

表3に示すように、天袋は「原則として全住宅に設置する」場合と「原則として設置しない」、
「住宅によっては設置しないものもある」に3分されている現状である。

表3. 天袋の設置原則

天袋の設置原則	件数	(%)
天袋は原則として全住宅についている	8	30.8
天袋は住宅型によっては付いていないものもある	8	30.8
天袋は原則として付いていない	10	38.5
不 明	5	—
合 計	31	100.0

表4. 各部屋の押入・物入の間口（押入・物入が付いているメーカーの場合）

各部屋の押入の最低間口

(間)	居室・和室		居室・洋室		台 所		玄関・ホール		階 段 下		廊 下		納 戸	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
0.1～0.2未満	3	10.7												
0.4～0.5					1	33.3								
0.5～0.6	14	50.0	4	57.1	1	33.3	1	100.0	2	100.0	1	100.0	1	100.0
0.7～0.8	3	10.7												
1.0～2.0	8	28.6	2	28.6	1	33.3								
2.0～			1	14.3										
小 計	28	100.0	7	100.0	3	100.0	1	100.0	2	100.0	1	100.0	1	100.0
設 置	28	90.3	7	22.6	3	9.7	1	3.2	2	6.5	1	3.2	1	3.2
非設置	3	9.7	24	77.4	28	90.3	30	96.8	29	93.5	30	96.8	30	96.8
合 計	31	100.0	31	100.0	31	100.0	31	100.0	31	100.0	31	100.0	31	100.0
平 均 (間)	0.6		0.9		0.6		0.5		0.5		0.5		0.5	

各部屋の押入の最高間口

(間)	居室・和室		居室・洋室		台 所		玄関・ホール		階 段 下		廊 下		納 戸	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
0.5～1.0未満									1	33.3				
1.0～1.5	2	7.4			1	33.3	1	100.0	2	66.7				
1.5～2.0	5	18.5	1	14.3	1	33.3					1	100.0	1	100.0
2.0～2.5	17	63.0	5	71.4	1	33.3								
2.5～3.0			1	14.3										
3.0～	3	11.1												
小 計	27	100.0	7	100.0	3	100.0	1	100.0	3	100.0	1	100.0	1	100.0
平 均 (間)	1.9		2.0		1.5		1.0		1.5		1.0		0.5	

住宅における収納スペースの設置状況

各部屋の押入の平均間口

(間)	居室・和室		居室・洋室		台 所		玄関・ホール		階 段 下		廊 下		納 戸	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
0.5未満									1	33.3				
0.5~1.0					1	33.3	1	100.0	2	66.7				
1.0~1.5	19	67.9	4	57.1	2	66.7					1	100.0	1	100.0
1.5~2.0	7	25.0	2	28.6										
2.0~	2	7.1	1	14.3										
小 計	28	100.0	7	100.0	3	100.0	1	100.0	3	100.0	1	100.0	1	100.0
平 均 (間)	1.2		1.3		0.8		0.5		0.5		1.0		1.0	

各部屋の物入の最低間口

(間)	居室・和室		居室・洋室		台 所		玄関・ホール		階 段 下		廊 下		納 戸	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
0.5未満	2	33.3	2	8.7			2	14.3	1	4.3	3	18.8		
0.5~1.0	1	16.7	19	82.6	7	77.8	9	64.3	20	87.0	12	75.0	5	62.5
1.0~1.5	2	33.3	2	8.7	3	21.4	3	21.4	2	8.7	1	6.3	3	37.5
1.5~2.0	1	16.7												
小 計	6	100.0	23	100.0	9	100.0	14	100.0	23	100.0	16	100.0	8	100.0
平 均 (間)	0.7		0.5		0.6		0.6		0.5		0.5		0.7	

各部屋の物入の最高間口

(間)	居室・和室		居室・洋室		台 所		玄関・ホール		階 段 下		廊 下		納 戸	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
0.5~1.0未満	2	33.3			1	10.0			6	28.6				
1.0~1.5	1	16.7	4	16.7	5	50.0	8	61.5	11	52.4	10	58.8	2	22.2
1.5~2.0	1	16.7	7	29.2	1	10.0	2	15.4	3	14.3	2	11.8	2	22.2
2.0~2.5	2	33.3	12	50.0	2	20.0	2	15.4	1	4.8	4	23.5	4	44.4
3.0~4.0					1	10.0	1	7.7			1	5.9		
4.0~			1	4.2									1	11.1
小 計	6	100.0	24	100.0	10	100.0	13	100.0	21	100.0	17	100.0	9	100.0
平 均 (間)	1.3		1.8		1.4		1.4		1.0		1.4		1.9	

各部屋の物入の平均間口

(間)	居室・和室		居室・洋室		台 所		玄関・ホール		階 段 下		廊 下		納 戸	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
0.5未満	2	33.3							1	4.0				
0.5~1.0	1	16.7	3	12.5	8	72.7	9	60.0	21	84.0	12	70.6	1	10.0
1.0~1.5	3	50.0	19	79.2	1	9.1	5	33.3	3	12.0	4	24.5	7	70.0
1.5~2.0			2	8.3	2	18.2	1	6.7			1	5.9	2	20.0
小 計	6	100.0	24	100.0	11	100.0	15	100.0	25	100.0	17	100.0	10	100.0
平 均 (間)	0.6		1.0		0.8		0.8		0.6		0.7		1.1	

c. 押入・物入が設置されている部屋とその間口

押入・物入の間口の状況を表4に示す。

標準的な住宅について、台所、玄関・ホール、階段下、廊下、納戸に押入を設置しているメーカーはほとんどなく、居室（洋室）の場合も少ない。物入は、居室（洋室）と階段下には7割程度、玄関・ホールと廊下には約半数のメーカーにおいて設置されている。

間口の間数は、押入の場合各部屋ともに最低寸法のはほとんどが半間であり、居室については最高寸法は2間、平均寸法は1間が一般的である。物入では、最低寸法は各部屋ともに半間がもっとも多いが、最高寸法はメーカーによる平均が1間～2間の間でばらつきがみられる。平均寸法についても同様に半間～1間の間でばらつきがある。

d. 一住宅当たりの押入の間口寸法

一住宅当たりの押入の総間口間数について、表5に示す。最低、最高、平均間口ともにメーカーによる差が大きくかなりの開きがみられるが、最低間口2間、最高間口6間、平均間口4間という寸法がもっとも多い。

表5. 一住宅当たりの押入の総間口

押入総間口 (間)	最低間口		最高間口		平均間口	
	件数	%	件数	%	件数	%
0～1間未満	3	11.5				
1～2	4	15.4			3	11.1
2～3	8	30.8	1	3.8	4	14.8
3～4	6	23.1	6	23.1	3	11.1
4～5	5	19.2	3	11.5	9	33.3
5～6			6	23.1	6	22.2
6～7			3	11.5	2	7.4
7～8			2	7.7		
8～			5	19.2		
平均(間)	2.3		6.3		3.6	

2) 収納壁の設置状況

a. 収納壁の設置割合

ハウスメーカーが建設する住宅について、その販売戸数中に占める収納壁を設置した住宅の割合を、表6に示す。収納壁の設置割合は、1～3割未満のメーカーがもっとも多く約4割である。また、全メーカーの平均設置割合は約3割であり、収納壁が設置されている住宅はまだあまり多くないといえる。

表6. 収納壁の設置割合

(割)	件数	%
1割未満	7	24.1
1～3	12	41.4
3～5	4	13.8
5～7	1	3.4
7～9	4	13.8
10割	1	3.4
小計	29	100.0
無回答	2	
合計	31	
平均(割)	2.8	

次に、ハウスメーカーの所在地別に収納壁の設置割合をみると、その設置割合が5割を超えているのは1件を除いて東京のメーカーに限られており、また平均設置割合の面でも東京のメーカーが高い割合を示している等、地域による設置割合の違いが認められる(表7参照)。

表7. メーカーの所在地別収納壁の設置割合

(割)	東京		大阪		その他	
	件数	%	件数	%	件数	%
1割未満	2	14.3	1	20.0	4	40.0
1～3	4	28.6	4	80.0	4	40.0
3～5	3	21.4			1	10.0
5～7	1	7.1				
7割以上	4	28.6			1	10.0
小計	14	100.0	5	100.0	10	100.0
無回答	1		1			
合計	15		6		10	
平均(割)	4.1		1.4		1.8	

b. 収納壁の設置場所

収納壁が設置される場所について、表8に示す。収納壁が設置されているのは居室（洋室）が一般的であり、居室（和室）と廊下・ホールに設けられることは少ない。

c. 収納壁の用途

ハウスメーカーが設置する収納壁について、メーカーによる計画段階での想定使用用途を、表9に示す。収納壁の用途は、「クロゼット」がもっとも多く、次いで「多目的棚」が続いている。また、「本棚」「飾り棚」の用途は少ないことから、

住宅における収納スペースの設置状況

表8. 収納壁の主な設置場所
(複数回答)

設置場所	件数	(%)
居室 (和室)	5	17.2
居室 (洋室)	27	93.1
廊下・ホール	7	24.1
その他	4	13.8
小 計	29	100.0
不 明	2	
合 計	31	

表9. 収納壁の用途
(複数回答)

用 途	件数	(%)
本棚	7	24.1
クロゼット	22	75.9
飾り棚	10	34.5
多目的棚	15	51.7
その他	1	3.4
小 計	29	100.0
不 明	2	
合 計	31	

収納壁は個室 (洋室) に設けられることが一般的
といえよう。

3) その他の収納スペースの設置状況
押入・天袋と収納壁を除く「その他の収納ス

ペース」の設置状況を、表10に示す。

多くのメーカーが設置している収納スペースは、
台所における「つり戸棚」「床下収納庫」、玄関・
ホールにおける「くつ入れ」、洗面・脱衣室にお
ける「洗面化粧台」「メディスン・ボックス」、居

表10. 収納スペースの設置状況

	収納スペース	全て ついている		ついている 方が多い		ついている 方が少ない		全てついで いない		小 計		不明	合計
		件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%		
台 所	台所作業台	10	32.3	5	16.1	11	35.5	5	16.1	31	100.0	0	31
	つり戸棚	31	100.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	31	100.0	0	31
	食器棚	2	6.7	5	16.7	19	63.3	4	13.3	30	100.0	1	31
	床下収納庫	20	64.5	9	29.0	2	6.5	0	0.0	31	100.0	0	31
	物 入	3	10.7	4	14.3	17	60.7	4	14.3	28	100.0	3	31
玄 関 ・ ホ ール	くつ入れ	22	71.0	5	16.1	4	12.9	0	0.0	31	100.0	0	31
	洋服入れ	3	9.7	7	22.6	16	51.6	5	16.1	31	100.0	0	31
	物 入	3	10.3	10	34.5	12	41.4	4	13.8	29	100.0	2	31
洗 面 脱 衣 室	メディスン・ボックス	12	42.9	3	10.7	7	25.0	6	21.4	28	100.0	3	31
	洗面化粧台	31	100.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	31	100.0	0	31
	つり戸棚	2	6.5	7	22.6	20	64.5	2	6.5	31	100.0	0	31
	物 入	4	14.3	5	17.9	15	53.6	4	14.3	28	100.0	3	31
便 所	つり戸棚	0	0.0	5	16.7	17	56.7	8	26.7	30	100.0	1	31
	物 入	4	12.9	9	29.0	16	51.6	2	6.5	31	100.0	0	31
廊 下	戸 棚	0	0.0	5	17.9	7	25.0	16	57.1	28	100.0	3	31
	物 入	5	16.1	15	48.4	10	32.3	1	3.2	31	100.0	0	31
居 室	洋服入れ	4	12.9	22	71.0	4	12.9	1	3.2	31	100.0	0	31
	飾り棚	0	0.0	3	10.0	21	70.0	6	20.0	31	100.0	1	31
	物 入	6	20.0	22	73.3	2	6.7	0	0.0	30	100.0	1	31
そ の 他	納 戸	2	6.5	17	54.8	12	38.7	0	0.0	31	100.0	0	31
	ウォークイン・クロゼット	2	6.5	14	46.7	13	43.3	1	3.3	30	100.0	1	31
	屋根裏収納	0	0.0	13	41.9	17	54.8	1	3.2	31	100.0	0	31

室における「洋服入れ」「物入」等であり、使用場所と用途が明確な最低限のものに限定されている。

4) 収納スペースの設置原則

a. 居室に対する収納スペースの設置原則

居室に対する収納スペースの設置原則は、表11に示すように「居室には、原則としてすべて収納スペースを設ける」とするメーカーが約半数あるが、「洋室についてはない場合もある」とするメーカーが約4割もあり、洋室の収納スペースには、問題があるといえよう。

表11. 居室における収納スペースの設置原則

設置原則	件数	%
居室には、原則としてすべて収納スペースを設けている。	16	51.6
和室には、原則としてすべて収納スペースを設けているが、洋室にはない場合もある。	12	38.7
和室・洋室の区別なく、居室には収納スペースのない部屋もある。	2	6.5
その他	1	3.2
合 計	31	100.0

b. 居室の収納スペース面積

居室の一室当たりの収納スペース面積に対する基準は、表12に示すようにその基準を設けているメーカーは2割に満たず、8割以上のメーカーでは特にその基準は設けられていないのが現状である。

基準があると答えたメーカーでは、居室の床面積比によって規定しているメーカー（1件）、一部屋当たりの最低間口寸法を規定しているメーカー（3件）、一部屋当たりの基準間口寸法を規定しているメーカー（1件）などがみられた。しかし、部屋の種類や用途別に基準を設けている例

表12. 居室一室当たりの収納スペース面積基準

収納スペースの面積基準	件数	%
居室一室当たりのスペースの広さの基準を設けている。	5	16.1
居室一室当たりのスペースの広さの基準を設けていない。	26	83.9
合 計	31	100.0

はまったくない。

c. 住宅全体の収納スペース面積

住宅全体に対する収納スペースの面積基準は、表13に示すように特に基準を設けていないメーカーが約8割であり、メーカーによる基準がない方が一般的といえる。基準が設けられている場合の基準の内容は、延べ床面積比による規定をしているメーカー（2件）、延床面積による収納スペースの間口寸法を規定しているメーカー（1件）、一住宅当たりの最低間口寸法を規定しているメーカー（1件）、一室当たりの標準間口寸法を規定しているメーカー（2件）などである。

以上のように、ハウスメーカーが建設する住宅では、計画段階において基準が設けられておらず、基準がある場合は面積比と間口寸法によるものがすべてであり、種類や内容についての基準はまったくない。

表13. 住宅全体の収納スペース面積基準

収納スペースの面積基準	件数	%
住宅全体の収納スペースの広さの基準を設けている。	7	22.6
住宅全体の収納スペースの広さの基準を設けていない。	24	77.4
合 計	31	100.0

2. 収納専用スペースの設置状況と設置原則

ここでは、「納戸」「ウォークインクローゼット」

表14. 収納専用スペースの設置割合

	1割未満		1～3割未満		3～5割未満		5～7割未満		7割以上		合 計	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
納 戸	0	0.0	10	34.4	9	31.0	5	17.2	5	17.2	29	100.0
ウォークインクローゼット	1	3.6	8	28.5	11	39.3	5	17.9	3	10.8	28	100.0
屋根裏部屋	6	20.6	9	31.0	5	17.2	5	17.2	4	13.7	29	100.0
地下室	22	81.4	3	11.1	1	3.7	1	3.7	0	0.0	27	100.0

(不明の対象を除いている)

住宅における収納スペースの設置状況

表15. メーカー所在地別ウォークインクロゼットの設置割合

	3割未満		3~5割未満		5~7割未満		7割以上		合計		平均設置割合 (割)
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	
東京	1	7.7	6	46.2	4	30.8	2	15.4	13	100.0	4.6
大阪	2	40.0	2	40.0	1	20.0			5	100.0	2.7
その他	6	60.0	3	30.0			1	10.0	10	100.0	2.6
合計	9	32.1	11	39.3	5	17.9	3	10.7	28	100.0	3.6

(不明の対象を除いている)

表16. 収納専用スペースの設置面積

収納専用スペースの最低面積

(間)	納戸		ウォークインクロゼット		屋根裏部屋		地下室	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
~1 未満	1	4.2						
1~2	4	16.7	9	39.1	3	15.0	1	11.1
2~3	18	75.0	14	60.9	11	55.0	4	44.4
3~4	1	4.2			2	10.0	1	11.1
4~5					2	10.0		
5~以上					2	10.0	3	33.3
小計	24		23		20		9	
無回答	7		8		11		22	
合計	31		31		31		31	
平均(畳)		1.9		1.8		2.6		3.7

収納専用スペースの最高面積

(間)	納戸		ウォークインクロゼット		屋根裏部屋		地下室	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
2~4 未満	3	9.7	7	30.4	1	5.6	1	14.3
4~6	8	25.8	10	43.4	4	22.2	1	14.3
6~8	10	32.3	4	17.4	4	22.2		
8~10	1	3.2			5	27.8	1	14.3
10~15	2	6.5	2	8.7	1	5.6	2	28.6
15~20					1	5.6	1	14.3
20~25					1	5.6		
25~以上					1	5.6	1	14.3
小計	24		23		18		7	
無回答	7		8		13		24	
合計	31		31		31		31	
平均(畳)		5.5		4.7		9.4		14.6

収納専用スペースの標準面積

(間)	納 戸		ウォークイン クロゼット		屋根裏部屋		地下室	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
1～2 未満	1	3.8	1	3.8			1	10.0
2～3	7	26.9	13	50.0	3	13.6	2	20.0
3～4	13	50.0	10	38.5	4	18.2	2	20.0
4～5	4	15.3	1	3.8	9	40.9		
5～6	1	3.8	1	3.8				
6～7					3	13.6	2	20.0
7～8					1	4.5		
8～9							1	10.0
9～以上					2	9.1	2	20.0
小 計	26		26		22		10	
無回答	5		5		9		21	
合 計	31		31		31		31	
平 均 (畳)		3.0		2.7		4.7		6.4

等の収納専用スペースについて、その設置状況、設置原則、およびメーカーが想定する使用用途について検討する。

1) 収納専用スペースの設置状況

a. 収納スペースの設置割合

各メーカーが建設する住宅について、納戸、ウォークインクロゼット、屋根裏部屋、地下室などの収納専用スペースの設置割合を、表14に示す。

各収納専用スペースともにその設置割合はあまり多くないが、地下室の設置割合は特に少なく、地下室が設けられるのは特殊なケースと考えられる。納戸、ウォークインクロゼット、屋根裏部屋ともに、全メーカーの平均設置率は3割台となっており、納戸とウォークインクロゼットの設置率の間に大きな差はない。ただし、新しい収納形態であるウォークインクロゼットについては地域によって設置率に違いがあることが予測されるため、メーカーの所在地別にウォークインクロゼットの設置率をとらえたのが、表15である。これによると、東京に所在地があるメーカーではその半数近くが5割以上のウォークインクロゼット設置率を示しており、平均設置割合の面でも東京のメーカーの設置率が高い傾向がみられる。一方、東京以外の地域でのウォークインクロゼット設置率は概して低く、地域的な差異があるといえる。

b. 収納専用スペースの設置面積

各メーカーが建設する住宅において、その収納

専用スペースの最低面積・最高面積・標準面積がどのようなものであるか調査した。その結果を、表16に示す。

最低面積については、各スペースとも最も多いのは「2～3畳未満」であるが、最低面積の全メーカーの平均をみると納戸とウォークインクロゼットの面積が2畳弱であるのに対し、屋根裏部屋と地下室の面積はこれより大きくなっている。

最高面積については、全メーカーの平均面積は、納戸が5.5畳、ウォークインクロゼットが4.7畳といずれも5畳前後であるのに対し、屋根裏部屋と地下室ではこれよりかなり大きく、2倍からそれ以上の広さとなっている。また、屋根裏部屋と地下室では面積の狭いメーカーから広いメーカーまで幅広く散らばっており、地下室の場合は特にこの傾向が顕著である。

標準面積については、納戸は「3～4畳」のメーカーが最も多く、ウォークインクロゼットでは「2～3畳」のメーカーが最も多くなっている。全メーカーの平均でも納戸3.0畳、ウォークインクロゼット2.7畳となっており、やや納戸の面積の方が広がっている。一方、屋根裏部屋と地下室の全メーカーの平均はこれらより広く、また広さの散らばりも大きくなっており、地下室では特にこの傾向は顕著である。

以上のように、最低面積・最高面積・標準面積ともに、その面積の大きさはウォークインクロゼット→納戸→屋根裏部屋→地下室の順になって

住宅における収納スペースの設置状況

表17. 収納専用スペースの設置箇所

	1割未満		1~3割未満		3~6割未満		6割以上		合計	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
納戸が2箇所以上設置されている住宅	21	75.0	6	21.5	1	3.5	0	0.0	28	100.0
ウォークインクロゼットが2箇所以上設置されている住宅	17	63.1	7	46.4	0	0.0	3	11.1	27	100.0
納戸とウォークインクロゼットが併設されている住宅	12	43.0	11	40.0	1	3.5	4	14.0	28	100.0

いるが、前二者と後二者の間の面積に開きがある。また、後二者ではメーカーによって面積にばらつきがみられる。これは、前者が他の居住空間を浸食する形で面積の拡大を図らねばならないのに対し、後者はメーカーの考え次第で、他の居住空間と関わりなく面積の増減を図るのが容易であることによっているといえよう。

c. 収納専用スペースの設置箇所

各メーカーが建設している住宅において、「納戸が2箇所以上設置されている住宅の割合」、「ウォークインクロゼットが2箇所以上設置されている住宅の割合」、「納戸とウォークインクロゼットが併設されている住宅の割合」が、それぞれの程度であるかを調査した。その結果を、表17に示す。

納戸、ウォークインクロゼットともに複数設置されている住宅の割合は、非常に少ない。納戸とウォークインクロゼットそれぞれの複数設置住宅の割合を比べるとウォークインクロゼットを複数設置する割合の方がやや多く、納戸の場合「一世帯に一箇所」という考え方が一般的といえる。ウォークインクロゼットが複数設置されている住宅は、基本的に世帯全体が衣類を個人別に集中して収納する方式であるといえるが、ウォークインクロゼットについても、納戸よりは複数設置する住宅の割合はやや多いが複数設置率が1割未満のメーカーが6割を越えており、欧米でみられるような各個室に設置するというウォークインクロゼット本来の設置のされ方は、わが国においてはまだほとんどなされていないといえる。納戸とウォークインクロゼットが併設されている住宅の割合が1割以上を占めるメーカーは約6割となっており、納戸やウォークインクロゼットの複数設置住宅に比べてやや多い状況である。

d. 収納専用スペースに取付けられている設備

メーカーが建設している納戸およびウォークインクロゼットに、原則として取付けられている設備について調査した。その結果を、表18に示す。

表18. 収納専用スペースに取付けられている設備 (複数回答)

	納戸		ウォークインクロゼット	
	件数	%	件数	%
パイプ	1	4.0	28	96.6
つり戸棚	5	20.0	6	20.7
まくら棚	7	28.0	20	69.0
つくりつけ戸棚	3	12.0	7	24.1
その他	0	0.0	3	10.3
特に設備として設けているものはない	17	68.0	2	6.9
小計	25	100.0	29	100.0
不明	6	—	2	—
合計	31		31	

納戸は、「特に設備として設けているものはない」と答えたメーカーが過半数を越えており、設備を設けているメーカーは少ない。設けられている設備のほとんどは、棚・戸棚であり、パイプはほとんどない。これは、メーカーが、納戸に家具や衣類以外の非日常品を収納することを想定しており、衣類の収納は家具のなかに収納することを想定しているためであると考えられる。

一方、ウォークインクロゼットは、ほとんどのメーカーが設備を設けている。設けられている設備は、「パイプ(84.8%)」と「まくら棚(60.6%)」が多く、「衣類が見える状態で吊るして収納する」というウォークインクロゼットの一般的な使われ方を想定していることを示していると考えられる。しかし、パイプを設けていないメーカーが15.2%あり、これらはウォークインクロゼットと名付け

られているスペースであるにもかかわらず、このスペースが衣類収納に使用されることを困難なものにしており、ウォークインクローゼット本来の使い方が行えないスペースとなっている。

2) 収納専用スペースの設置基準

各メーカーが、納戸およびウォークインクローゼットを設置するに当たって設けている基準について調査した。その結果を、表19に示す。

表19. 収納専用スペースの設置基準
(複数回答)

収納専用スペースの設置基準	納 戸		ウォークインクローゼット	
	件数	%	件数	%
原則として和洋を問わず主寝室に接続して設ける。	0	0.0	2	6.7
原則として和室の主寝室に接続して設ける。	0	0.0	0	0.0
原則として洋室の主寝室に接続して設ける。	0	0.0	14	46.7
主寝室に限らないが和洋を問わず寝室に接続して設ける。	2	6.7	3	10.0
主寝室に限らないが和室の寝室に接続して設ける。	1	3.3	0	0.0
主寝室に限らないが洋室の寝室に接続して設ける。	0	0.0	4	13.3
廊下・ホールに接続して設ける。	12	40.0	0	0.0
住宅のプランにより異なるので別に基準は設けていない。	18	60.0	12	40.0
小 計	30	100.0	30	100.0
不 明	1		1	
合 計	31		31	

納戸については、「設置基準を設けていない」メーカーが55%と過半数を占めており、納戸についてはメーカーは明確な方針を持っていないといえる。基準を設けているメーカーでは、そのうち「廊下・ホールに接続して設ける」という基準をもつメーカーが8割を占めており、寝室に設けることを基準にしているメーカーは2割である。

一方、ウォークインクローゼットについても「設置基準を設けていない」メーカーが34%とかなりあるが、全体としては基準を設けているメーカー

の方が多い。基準が設けられているメーカーについては、そのうち約6割が「洋室の主寝室に接続して設ける」基準をもっており、約7割が主寝室に設ける基準を、約8割が洋室の寝室に設ける基準をもっている。

3) 収納専用スペースに対する想定用途

各メーカーが、納戸およびウォークインクローゼットの使われ方をどのように想定しているのかについて、調査した。その結果を、表20に示す。

表20. 収納専用スペースに対するメーカーの想定用途
(複数回答)

収納専用スペースの想定用途	納 戸		ウォークインクローゼット	
	件数	%	件数	%
タンス類等大型家具をまとめて置く場所	22	73.3	8	26.7
季節外用品や日常あまり使わないものを置く場所	24	80.8	0	0.0
使用中・季節外を問わず衣類全般を置く場所	6	20.0	20	66.7
季節外の衣類を置く場所	11	36.7	7	23.3
使用中の衣類を収納する場所	3	10.0	14	46.7
主に家族共同で使用する場所	11	36.7	0	0.0
主に個人または夫婦で使用する場所	4	13.3	17	56.7
着替えや化粧をする場所	1	3.3	10	33.3
使い方については、特に想定していない	7	23.3	3	10.0
小 計	30	100.0	30	100.0
不 明	1		1	
合 計	31		31	

納戸については、タンス類等の大型家具をまとめて置き、衣類以外の季節外用品や非日常品を置く場所と想定しているメーカーが多い。衣類に関しては、使用中よりも季節外のもの置く場所と想定している。また、使用者については、家族共同で使用する場所と想定している。

一方、ウォークインクローゼットに対してメーカーは、衣類全般を置き、特に季節外よりも使用中の衣類を主に収納する場所と想定している。使用者については、「家族共同で使用する場所」と

住宅における収納スペースの設置状況

答えたメーカーは全くなく、個人で使用する場所と想定している。また、着替えや化粧をする場所として使われることを想定しているメーカーも30%ある。しかし、「タンス類等大型の家具をまとめて置く場所」と答えたメーカーが2割以上もあり、メーカー側に納戸とウォークインクローゼットの混同がみられる。

また、「使い方については、特に想定していない」メーカーが納戸については約2割、ウォークインクローゼットについては約1割ある。

3. ウォークインクローゼットに対するメーカーの取組み方と将来動向予測

1) ウォークインクローゼットに対するメーカーの取組み方

各メーカーが、現在ウォークインクローゼットに対してどのような取組み方をしているのかについて調査した。その結果を、表21に示す。

まず、納戸とウォークインクローゼットのどちらの方を優先的に設置しているかについては、納戸の方を優先すると答えたメーカーは約3割であり、ウォークインクローゼットの方を優先するメーカーは約4割であるが、建設地域や住戸面積の条件を

付加すると、ウォークインクローゼットの方を優先しているメーカーが約6割ある。

また、ウォークインクローゼットに対する重視度については、ウォークインクローゼットを重視していないと答えたメーカーは3割弱であり、ウォークインクローゼットをセールスポイントとして積極的に設置しているメーカーは2割弱であるが、建設地域と住戸面積の条件を付加すると7割以上のメーカーがウォークインクローゼットを積極的に設置しているといえる。また、ウォークインクローゼットを設置するに当たって付加される条件では、建設地域と住戸面積のうち、面積条件の方が重視されており、住宅の面積が広がれば、ウォークインクローゼットを設置していこうとする姿勢があるといえる。

2) ウォークインクローゼットに対するメーカーの将来動向

ウォークインクローゼットに対して、各メーカーがもっている今後の設置方針について調査した。その結果を、表22に示す。

各メーカーが、今後、納戸とウォークインクローゼットのどちらの方を優先的に設置する方針かに

表21. ウォークインクローゼットに対するメーカーの取組み方

納戸とウォークインクローゼットとの比較	件数	%
現在、原則的に納戸よりもウォークインクローゼットの方を優先して設置している。	12	42.9
建設する地域によっては、納戸よりもウォークインクローゼットの方を優先して設置している。	5	17.7
面積の広い住宅については納戸よりもウォークインクローゼットの方を優先して設置している。	2	7.1
現在、原則としてウォークインクローゼットよりも納戸を中心として設置している。	9	32.1
小 計	28	100.0
不 明	3	
合 計	31	

ウォークインクローゼットに対する重視度	件数	%
現在、ウォークインクローゼットをセールスポイントとして積極的に設置している。	5	18.5
建設する地域によっては、ウォークインクローゼットをセールスポイントとして積極的に設置している。	4	14.6
面積の広い住宅については、ウォークインクローゼットをセールスポイントとして積極的に設置している。	11	40.0
現在、ウォークインクローゼットに対してはあまり重視していない。	7	25.9
小 計	27	100.0
不 明	4	
合 計	31	

については、納戸の方を優先する方針と答えたメーカーは約2割弱であり、現在の設置状況よりも少ない。すなわち、建設地域・住戸面積の条件付きではあるが、各メーカーは今後ともにウォークインクロゼット設置の方を優先する方針であるといえる。

ウォークインクロゼットの今後の設置方針を建

設地域の側面からみると、「全国的に設置を増加する」、「建設する地域によって設置を増加する」、「設置を増加する予定はない」に3分されている。また、これと同様に住戸面積の側面からみると、「住戸面積が小さくても設置を増加する」方針のメーカーは少なく、約7割が「住戸面積が大きい住宅については設置を増加する」方針をもってい

表22. ウォークインクロゼットに対するメーカーの今後の方針

納戸とウォークインクロゼットとの比較	件数	%
今後、原則的に納戸よりもウォークインクロゼットの方を優先して設置する方針である。	8	33.3
今後、建設する地域によっては、納戸よりもウォークインクロゼットの方を優先して設置する方針である。	5	20.8
今後、面積の広い住宅については納戸よりもウォークインクロゼットの方を優先して設置する方針である。	7	29.1
今後、原則としてウォークインクロゼットよりも納戸を中心として設置する方針である。	4	16.7
小 計	24	100.0
不 明	7	
合 計	31	

ウォークインクロゼットの地域別方針	件数	%
今後、全国的にウォークインクロゼットの設置を増やす方針である。	9	34.8
今後、建設する地域によってはウォークインクロゼットの設置を増やす方針である。	8	30.8
今後、ウォークインクロゼットの設置を増やす予定はない。	9	34.9
小 計	26	100.0
不 明	5	
合 計	31	

ウォークインクロゼットの面積別方針	件数	%
今後、住戸面積が小さくてもウォークインクロゼットの設置を増やす方針である。	2	8.0
今後、住戸面積が大きい住宅についてはウォークインクロゼットの設置を増やす方針である。	17	68.0
今後、住戸面積の大きい住宅についてもウォークインクロゼットの設置を増やす予定はない。	6	24.0
小 計	25	100.0
不 明	6	
合 計	31	

ウォークインクロゼットの設置箇所数	件数	%
今後、各寝室にウォークインクロゼットを設置する住宅を増やす方針である。	8	30.0
今後、ウォークインクロゼットの設置箇所数が複数ある住宅を増やす方針である。	7	26.9
今後、ウォークインクロゼットの設置箇所数が複数ある住宅を増やす予定はない。	11	42.3
小 計	26	100.0
不 明	5	
合 計	31	

住宅における収納スペースの設置状況

る。設置箇所数については、「各寝室に設置する住宅を増加する」方針のメーカーが約3割あり、「設置箇所数が複数ある住宅を増加する」メーカーを含めると、約6割のメーカーが一住宅に複数のウォークインクローゼットを設置する住宅を増加する方針といえる。

3) ウォークインクローゼットの必要性についてのメーカーの考え

ウォークインクローゼットに対して、その必要性をメーカーがどのようにとらえているかについて、調査した。その結果を、表23に示す。

納戸とウォークインクローゼットの必要性に対するメーカーの考えは、納戸の方が必要であると答

表23. ウォークインクローゼットに対する必要性（メーカーの考え）

納戸とウォークインクローゼットとの比較	件数	%
今後、原則的に納戸よりもウォークインクローゼットの方を優先して設置する必要がある。	8	30.1
今後、建設する地域によっては、納戸よりもウォークインクローゼットの方を優先して設置する必要がある。	7	26.9
今後、面積の広い住宅については納戸よりもウォークインクローゼットの方を優先して設置する必要がある。	5	19.2
今後、原則としてウォークインクローゼットよりも納戸を中心として設置する必要がある。	6	23.1
小計	26	100.0
不明	5	
合計	31	

ウォークインクローゼットの地域別必要性	件数	%
今後、全国的にウォークインクローゼットの設置を増やす必要がある。	10	38.5
今後、建設する地域によってはウォークインクローゼットの設置を増やす必要がある。	11	42.3
今後、ウォークインクローゼットの設置を増やす必要はない。	5	19.2
小計	26	100.0
不明	5	
合計	31	

ウォークインクローゼットの面積別必要性	件数	%
今後、住戸面積が小さくてもウォークインクローゼットの設置を増やす必要がある。	7	28.0
今後、住戸面積が大きい住宅についてはウォークインクローゼットの設置を増やす必要がある。	15	60.0
今後、住戸面積の大きい住宅についてもウォークインクローゼットの設置を増やす必要はない。	3	12.0
小計	25	100.0
不明	6	
合計	31	

ウォークインクローゼットの設置箇所数	件数	%
今後、各寝室にウォークインクローゼットを設置した住宅が必要である。	10	35.7
今後、ウォークインクローゼットの設置箇所数が複数ある住宅が必要である。	11	39.3
今後、ウォークインクローゼットの設置箇所数が複数ある住宅は必要ない。	7	25.0
小計	28	100.0
不明	3	
合計	31	

えたメーカーは約2割であり、客観的にみた必要性の側面からも、メーカーはウォークインクロゼットの方を重視しているといえる。

メーカーが考えるウォークインクロゼットの今後の必要性について、建設地域の側面からみると、「全国的に設置を増加する必要がある」と考えるメーカーが約4割、「建設する地域によって設置を増加する必要がある」と考えるメーカーが約4割となっており、「設置を増加する必要はない」と考えるメーカーは2割にすぎない。また、これと同様に住戸面積の側面からみると、「住戸面積が小さくても設置を増加する必要がある」と考えるメーカーは約3割、「住戸面積が大きい住宅については設置を増加する必要がある」と考えるメーカーが6割あり、メーカーは住戸面積に余裕があればウォークインクロゼットを設置することが必要であることを、一般的に認めているといえる。設置箇所数については、「各寝室に設置する住宅を増加する必要がある」と考えるメーカーと、「設置箇所数が複数ある住宅を増加する必要がある」と考えるメーカーを加えると、7割以上のメーカーは一住宅に複数のウォークインクロゼットを設置する住宅を増加することが必要であると考えている。

以上のように、メーカーはウォークインクロゼットの設置について、メーカー自身が今後設置率を増加しようと考えている以上に、その必要性をかなり強く感じている。

4) わが国におけるウォークインクロゼットの将来動向予測

わが国におけるウォークインクロゼットの将来動向について、これをメーカーがどのようにとらえているかについて調査した。その結果を、表24に示す。

納戸とウォークインクロゼット設置に関して、わが国におけるその将来動向に対するメーカーの考えは、納戸設置住宅の方が今後増加するだろうと答えたメーカーは約1割であり、残り9割のメーカーは、何らかの形でウォークインクロゼットの方が将来増加するだろうと考えている。

メーカーが考えるわが国におけるウォークインクロゼットの将来動向について、建設地域の側面からみると、「全国的に設置住宅が増加するだろう」と考えるメーカーが約4割、「建設する地域によって設置住宅が増加するだろう」と考えるメーカーが約6割となっており、「設置した住宅は増えないだろう」と考えるメーカーは、ほとん

表24. ウォークインクロゼットの将来予測（メーカーの考え）

納戸とウォークインクロゼットとの比較	件数	%
今後、原則的に納戸よりもウォークインクロゼットの方を優先して設置する住宅が増えるだろう。	10	34.5
今後、建設する地域によっては、納戸よりもウォークインクロゼットの方を優先して設置する住宅が増えるだろう。	8	27.6
今後、面積の広い住宅については納戸よりもウォークインクロゼットの方を優先して設置する住宅が増えるだろう。	8	27.6
今後、原則としてウォークインクロゼットよりも納戸を中心として設置する住宅が増えるだろう。	3	10.3
小 計	29	100.0
不 明	2	
合 計	31	

ウォークインクロゼットの地域別予測	件数	%
今後、全国的にウォークインクロゼットを設置した住宅が増えるだろう。	11	39.3
今後、建設する地域によってはウォークインクロゼットを設置した住宅が増えるだろう。	16	57.0
今後、日本の生活様式からみてウォークインクロゼットを設置した住宅は増えないだろう。	1	3.7
小 計	28	100.0
不 明	3	
合 計	31	

住宅における収納スペースの設置状況

ウォークインクローゼットの面積別予測	件数	%
今後、住戸面積が小さくてもウォークインクローゼットを設置した住宅が増えるだろう。	10	35.7
今後、住戸面積が大きい住宅についてはウォークインクローゼットを設置した住宅が増えるだろう。	18	64.3
今後、住戸面積の大きい住宅についてもウォークインクローゼットを設置した住宅が増えないだろう。	0	0.0
小 計	28	100.0
不 明	3	
合 計	31	

ウォークインクローゼットの設置箇所数	件数	%
今後、各寝室にウォークインクローゼットを設置した住宅が増えるだろう。	15	50.0
今後、ウォークインクローゼットの設置箇所数が複数ある住宅が増えるだろう。	11	36.7
今後、ウォークインクローゼットの設置箇所数が複数ある住宅は増えないだろう。	4	13.3
小 計	30	100.0
不 明	1	
合 計	31	

どない。

また、これと同様に住戸面積の側面からみると、「住戸面積が小さくても設置住宅は増加するだろう」と考えるメーカーは36%、「住戸面積が大きい住宅については設置住宅は増加するだろう」と考えるメーカーが64%であり、「住戸面積が大きい住宅についても設置住宅は増加しない」と考えるメーカーは全くない。設置箇所数については、「各寝室に設置する住宅は増加するだろう」と考えるメーカーが半数あり、「設置箇所数が複数ある住宅が増加するだろう」と考えるメーカーを加えると、9割近くのメーカーが一住宅に複数のウォークインクローゼットを設置する住宅が増加するだろうと予測している。

以上のように、ウォークインクローゼットは、その設置率の増加の視点からみると、メーカーの現在の設置状況より、今後の設置方針においてはその増加傾向を示しており、これを客観的に必要性の側面から評価する場合にはさらに増加の必要性を示すメーカーの割合が増加している。また、わが国の将来動向という、より一本的・客観的な視点からとらえる場合には、設置増加を予測するメーカーの割合は最も高くなっている。すなわち、ウォークインクローゼットの設置率の増加については、より長期的・客観的・一般的な視点になるにしたがい、増加すると答えるメーカーの割合が多くなっているといえる。

ま と め

衣類に関する収納スペースの設置状況についての全国的な傾向と、収納専用スペースの設置状況およびその将来動向をとらえるため、全国のハウスメーカーに対する郵送のアンケート調査を実施し、31件の有効な分析サンプルを得た。分析の結果、以下のような成果が得られた。

1) 収納スペース全般についての設置状況と設置に関する原則について分析した。その結果、押入の標準寸法については、幅・奥行きともにやや短いメーカーが若干あること、物入についてはメーカーによるばらつきが大きく、幅・奥行きともに押入より短いことがとらえられた。また、天袋については全住宅に設置しているメーカーは3割しかない状況である。押入は、居室（和室）以外に設置されることは少なく、間口間数は、最低半間、最高2間、標準1間の寸法をとっているメーカーが一般的である。物入は、居室（洋室）と階段下に設置するメーカーが約7割あり、最低半間、最高1間～2間、標準半間～1間の寸法をとっているメーカーが多い。1住宅全体の総押入数は、最低2間、最高6間、標準4間の寸法をとっているメーカーが多い。

収納壁の設置割合はあまり多くないが、東京に所在地があるメーカーの設置率は他の地域より高

くなっている。収納壁は、主に居室（洋室）に設置されており、その用途は「クロゼット」として計画されることがもっとも多い。

その他の収納専用スペースについては、多くのメーカーが設けているのは使用場所と用途が明確な最低限のものに限定されている。

2) 収納スペースの設置原則については、居室に対する収納スペースの設置原則では、居室には原則としてすべて収納スペースを設けるメーカーは約半数にすぎず、洋室には収納スペースを設けないメーカーが多い。また、居室の収納スペース面積および住宅全体の収納スペース面積についての設置原則では、ともに特に基準を設けていないメーカーが8割にのぼっており、一般的に基準は設けられていないのが現状である。

3) 収納専用スペースの設置状況と設置原則について分析した。その結果、収納専用スペースの設置割合は、納戸、ウォークインクロゼット、屋根裏部屋ともに3割台であるが、地下室を設けているメーカーはほとんどみられない。また、新しい収納形態であるウォークインクロゼットについては、メーカーの所在地によって設置割合に違いがみられ、東京にあるメーカーの場合は設置割合が高くなっている。

また、収納専用スペースの面積では、最低面積の平均は納戸とウォークインクロゼットともに2畳弱、最高面積の平均はともに5畳前後、標準面積の平均はともに約3畳であるが、屋根裏部屋と地下室の場合は最低、最高、標準面積ともにこれより広くまたメーカーによるばらつきも大きい状況がとらえられた。収納専用スペースの設置箇所数については、納戸・ウォークインクロゼットともにそれぞれが一住宅に複数設置されている住宅を建設しているメーカーはほとんどなく、納戸とウォークインクロゼットを併設する住宅も多くない。

収納専用スペースに取付けられている設備については、納戸の場合設備を特に何も設けていないメーカーが多く、設けられている設備は棚・戸棚がほとんどである。ウォークインクロゼットには、ほとんどのメーカーが設備を設けており、それにはパイプと枕棚が多いが、パイプを設けていないメーカーも15%あり、ウォークインクロゼット本来の役割が果たせないスペースを作っている状況が認められた。

4) 収納専用スペースの空間設置基準について、

収納専用スペースが接続する空間の基準は、納戸では過半数のメーカーが設けておらず、設けているメーカーのうち8割は廊下・ホールに接続している。ウォークインクロゼットについては、7割近くのメーカーが基準を設けており、洋室の主寝室に設けるメーカーが多い。また、収納専用スペースの使い方に対するメーカーの想定は、納戸については大型家具やあまり使わない生活用品を置く場所で、家族共同で使用するととらえている。ウォークインクロゼットについては、衣類全般を置き、主に使用中の衣類を収納する場所で、個人で使用するものととらえているが、大型家具を置く場所と想定しているメーカーも約2割以上あり、メーカー側に納戸とウォークインクロゼットの使い方の想定に、混同がみられる。

5) ウォークインクロゼットに対するメーカーの取組み方とメーカーの将来動向予測について、分析した。その結果、住宅の面積条件や建設地域の条件があえば、ウォークインクロゼットを積極的に設置しているメーカーは7割あり、納戸よりもウォークインクロゼットの方を優先して設置しているメーカーの方がやや多い。また、今後の建設方針としては、さらにウォークインクロゼットを多く設置しようとする傾向がみられ、複数設置の住宅を増加しようと考えているメーカーは6割にのぼっている状況がとらえられた。

6) ウォークインクロゼットに対するメーカーの必要性意識や全国的な将来動向予測について、分析した。その結果、必要性については、メーカーは納戸よりウォークインクロゼットの方を必要と考えており、住宅の面積条件や建設条件および複数設置住宅の面からも、各メーカー自体の今後の建設予定以上に、一般的な必要性を強く感じている状況がとらえられた。全国的な将来動向については、納戸よりウォークインクロゼットの方が将来増加すると考えているメーカーは9割にのぼり、複数設置住宅が増加すると考えるメーカーも9割にのぼっている。

すなわち、ウォークインクロゼットの設置率の増加については、より長期的・客観的・一般的な視点になるほど、増加すると考えるメーカーが多くなる傾向がとらえられた。

以上のことから、都市圏の一定程度以上の面積をもつ住宅については、今後ウォークインクロゼットを設置した住宅が増加すると考えられる。